

名前：

私は、インターネットが情報収集の中心になっただとしても、新聞や雑誌は必要だと思う。確かに、ここ数年で我々と情報との関係は大きく変わった。その一因となっっているのは、コンピュータの普及によるインターネット利用者の増加である。今やほとんどの家庭に1台以上のコンピュータがあり、たとえ所有していないにしても、インターネットカフェや図書館などの公共施設でインターネットを利用することが出来る。これを使えば、瞬時に国内のみならず世界中のあらゆる情報を知ることが出来る。本当に便利な世の中だ。

しかし、少数派ではあっても、お年寄などインターネットを使えない人々がいることは確かだ。彼らにとっては未だに新聞や雑誌といった紙メディアが重要な情報源なのだ。

また、インターネット上の情報というものは、正確さよりも速さを重視している傾向にあると私は考える。膨大な情報の中からどれを選ぶのかも一苦勞なのに、これが正しい情報

かを見分けるのは容易ではない。一方、一般読者よりは目の肥えた記者や編集者を介し、<sup>和ら</sup>掲載された情報を載せるはずの新聞や雑誌の方が信頼性が高いのではないかと思う。

さらに、グローバルな社会において有用なインターネットに対し、ローカルな場所における新聞・雑誌の役割に注目したい。学校や特定の地域で配られる新聞や会報誌などには、量としては多くないが人々にとっては身近で重要な情報が盛り込まれている。またこれらが地域をつなぐネットワークの中心となり、人々が意見を交換したり団結を強めたりする場として重要な役割を担っていると思う。人と人とのつながりが感じられる、手作りの情報源の大事さを忘れてはならないだろう。

以上の点から、これからも新聞や雑誌は必要であると考えます。